

日本国際情報学会 国際開発研究部会 2020年度第1回 研究報告会 報告書

国際開発研究部会2020年度第1回研究報告会を下記のとおり開催しました。今回は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、初めての取組みではありましたが、Zoom (Web会議)を用いたインターネット上でのテレビ会議として開催しました。

記

1 部会目的

国際開発課題を経済開発と社会開発の両面から捉えて、ミレニアム開発目標(MDGs)や持続可能な開発目標(SDGs)を含む国際開発枠組み及び人間の安全保障・人権・社会開発のような開発理念をアプローチし、そして貿易と開発、技術移転・技術開発の促進、産業集積と地域経済発展、貿易障壁の削減の諸課題を経済学的な視点から理論・実証・政策の側面から研究する。

2 開催日時

2020年6月13日(土) 14時45分～18時45分(延長時間を含む)

3 開催会場

Zoom (Web会議)

4 研究報告会〔各報告25分、質疑応答15分〕 (敬称略)

司会者：陸亦群(国際開発研究部会長、日本大学経済学部教授)

日本国際情報学会
国際開発研究部会2020年度
第1回研究報告会

開催日時：2020年6月13日(土) 14時45分～
開催会場：Zoomミーティング(Web会議)



第1報告(14:50～15:30)

報告者：出雲 晃 日本大学大学院総合社会情報研究科

テーマ「高レベル放射性廃棄物処分プロセスにおける社会的合意形成

—社会的合意形成に向けた基本的アプローチにおける手続き的公正—」

国際開発研究部会2020年度第一回研究報告会(2020年6月13日)

高レベル放射性廃棄物処分プロセスに
おける社会的合意形成
～社会的合意形成に向けた基本的
アプローチにおける手続き的公正～

日本大学大学院 総合社会情報研究科 出雲 晃



高レベル放射性廃棄物処分プロセスでの社会的合意形成を進める上で考慮すべきアプローチを、海外の取組を踏まえ、Education、Engagement、Empowermentの三つに整理して手続き的公正の観点から考察し、これらのアプローチの意義を提示した。

第2報告：（15：30～16：15）

報告者：芳崎 文香 日本大学大学院総合社会情報研究科

テーマ「女性の就業継続に関する要因分析」

2020年6月13日(土)
日本国際情報学会国際開発研究部会
2020年度第1回研究報告会

女性の就業継続に関する要因分析

日本大学大学院総合社会情報研究科
博士後期課程 芳崎 文香



女性の社会進出を困難とさせていた要因として、非正規雇用労働に着目し、特に非正規シングル（未婚女性・シングルマザー）の経済的自立を目指すべくキャリア形成による正規雇用促進について考察した。

第3報告：（16：15～16：55）

報告者：田中 隆 日本国際情報学会

テーマ「経済発展に伴う都市化の経済の変化について
—都市化の経済に関する発展プロセスの仮説提起—」

経済発展に伴う都市化の経済の変化について
—都市化の経済に関する発展プロセスの仮説提起—

日本国際情報学会
田中 隆

【発表内容】

- 1 都市化の経済とは
- 2 理論的枠組み
- 3 都市化の経済に関する発展プロセスの仮説提起
- 4 都市化の経済に関する実証分析
- 5 まとめ

2020年6月13日(土)
日本国際情報学会国際開発研究部会



都市化の経済について先進国と開発途上国で差異があり、経済発展に伴う発展プロセスの考え方を示した。そして、パネルデータ分析によるベトナムと日本の人口移動の経済的要因に関する実証分析を行い、そこからベトナム経済の課題を提示した。

特別講演：（17：05～18：45）

報告者：報告者：井尻 直彦 RIIT—特定非営利活動法人 貿易障壁研究所 理事長・所長
日本大学経済学部教授

テーマ「貿易障壁の計測」

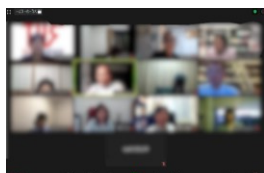


グローバルバリューチェーン（GVCs）の重要性に鑑み、非関税障壁の計測およびその削減の意義を報告した。

また COVID-19 の感染拡大下で輸出規制など保護貿易主義の台頭の危険性を指摘し、危機管理として国内生産ではなく必要物資のグローバルな国際備蓄庫の創設などを提案し、危機時こそグローバル化のメリットの理解促進が不可欠であることを述べた。

5 参加者

14名



左図は、参加者の視聴状況例